

令和5年度 自己評価表（中間評価）

教育目標	校訓である「立志」の精神に基づき、自らの志（使命感）を明確に持ち、将来、地域貢献及び社会貢献のできる心豊かな人材を育成する。
中長期目標	1 道徳教育の充実 2 キャリア教育の充実 3 高い志の実現に向けた、学ぶ意欲の向上

今年度の重点目標	1 人間性や社会性の向上 2 チャレンジグループ活動の再構築とキャリア教育の充実 3 学びの深化と主体的学びの構築 4 情報発信の更なる充実 5 働き方改革の推進
----------	---

評価基準 A:十分達成 [100%] B:概ね達成 [80%程度] C:変化の兆し [60%程度] D:まだ不十分 [40%程度] E:目標・方策の見直し [30%以下]

年度当初				評価結果(9月)			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
人間性や社会性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○個人や集団の間に存在している様々な「違い」の理解度を深める。 ○「人との関わり」や「出会い」を大切にすることで、豊かな心を育成し、主体性を培う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○思いやりをもって人と接することができる生徒が多く、生徒会活動や学校祭、中学生体験入学などで生徒が主体的に運営し、全体を見て考えて行動できる生徒が育成されつつある。 ○校外での活動機会や講演の機会が限られており、新たな出会いを設定することが限定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○存在する違いを良く理解し、積極的に自分のまわりの人たちのために行動することができる。また、人の思いに共感することができる。 ○様々な場面で「人との関わり」や「出会い」を大切にしている心がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会運営にPDCAサイクルを導入し、生徒自らが現状分析及び課題解決方策について検討していく。 ○ホームルーム活動をはじめとする様々な教育活動を通して、様々な立場で物事を考える場面を設定し、思いやりをもち相手軸で考える行動ができるようにする。 ○引き続き、目的や意図を明確にした上で、生徒自身が運営する活動やボランティア活動や講演会、校外研修などを通して、新たな出会いの場面を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域貢献活動の実施、学校祭や中学校体験入学などの運営を生徒会を中心に行った。また、生徒自治活動を実施し、ステージ集会の運営を生徒主導で行った。 ○自己理解・他者理解LHRや講演会、人権LHRなどの活動を通し、自分の周りにはさまざまな考えをもつ人がいて、相手の立場に立ち考える機会を持つことができた。 ○ボランティア活動など校外での活動において新たな人との関わりを持つことができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○今後設定されている生徒会活動や人権教育LHR、講演会等において、他者の考え方や言葉を尊重し、吸収していこうとする姿勢を身につけさせる。 ○思いやりをもって言動ができるよう、継続して全体、個別への声かけを行う。 ○引き続きボランティア活動、後期にある校外研修、後期執行部への参加など、意義を伝え、積極的な行動を促す。
チャレンジグループ活動の再構築とキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○「地域を支える、貢献に資する人材を育成する」高校として、倉吉市や地元大学等と連携しながら、「ふるさとキャリア教育」を推進する。 ○他校生との交流を通して、インプットする場面やアウトプットする場面を経験することで、自らの視野や選択肢の拡大につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域や地元大学等との連携の場が少なく、地域理解・課題解決への取組は十分とは言えない。 ○若者地域づくり交流会や日本女性会議プレイベントなど、校外でのイベントやシンポジウム等に参加し、探究につながる活動をする生徒が出てきているが、拡がりや十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域や地元大学との連携により、地域理解が進み、課題解決への取組等を積極的に探究しようとする生徒が増加している。 ○校外でのイベントやシンポジウムに積極的に参加することで、自らの視野や選択肢が広がり、将来の学びや生き方について考える生徒が増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○3年間を見通した進路学習計画に沿って地元自治体や地元大学の協力を仰ぎながら、講演会や施設・企業訪問等の機会をとらえ、生徒が地域や社会について理解を深め、視野を広げる活動を推進する。 ○生徒、教職員の連携を密にし、シンポジウム等への参加を成長の場面ととらえ、応募・参加を呼びかけるとともに、必要な支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○倉吉市との連携に向けた協議を行い、S1は鳥取県立美術館をテーマとした探究、S2の探究への協力を計画している。 ○地元大学の先生を招聘し、グループごとに、探究活動を深める講演会を行った。 ○夏休みを利用し、S2の生徒はほぼ全員がオープンキャンパスへ参加し、主体的に自らの進路開拓をしている。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○後期に設定しているフィールドワークイン関西やフィールドワークイン鳥取、大学訪問、探究活動などを、キャリアや探究と連携し取り組むことで、生徒を育成していく。 ○校外での活動の情報を生徒に案内し、積極的な参加を促す。
学びの深化と主体的学びの構築	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館を積極的に活用し、課題解決能力の育成に向けた学びを深める。 ○ICTの効果的な活用をさらに進め、生徒の主体的学びにつなげる授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○貸出冊数・授業利用時間共に減少している傾向がみられる。また、授業や探究学習において図書館を活用した学び合いの機会が少なく、学ぶ集団として協同で課題解決に取り組む姿勢が十分ではない。 ○連絡手段としての活用、学力に関する情報の蓄積、ICT機器を活用した授業など、効果的な場面は増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○書籍や資料等を活用して課題解決に取り組む生徒が増える。 ○協同的・協調的な授業やチャレンジグループ活動により、生徒相互の学び合いが活発化し、主体的に学ぶ生徒が増える。 ○生徒がICTを積極的に活用し、主体的な学習者へと変容している。 ○全ての教科、総合的な探究の時間でChromebookを活用した学びを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館だけでなく、県立図書館等の図書館ネットワークを利用して生徒が書籍や資料を迅速に利用できる環境を再構築する。 ○チャレンジグループ活動で班研究活動を行い、協同的・協調的に取り組む環境を整え、学び合う機会を増やす。 ○各教科と連携し、校内研究授業・公開授業等を行い、活用方法の共有や研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○S2で新書の取り組みを実施したこと図書館の活用が増えた。(前年比1.7倍) ○夢ナビやマナビジョン等を効果的に取り入れて、模試の振り返りや動画視聴、情報収集等に取り組ませるなど、ICTを活用した進路意識の醸成・主体的学びへの意識が向上した生徒が増えている。 ○公開授業は、実施予定数7教科中4教科実施された。活用方法の共有に向け、報告書も作成している。 ○授業における工夫について、生徒アンケートの評価が高い。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○継続して、図書館の利用や授業での活用を促す。 ○ICTを活用しつつ、課題を洗い出すことで、効果的に利用する方法の構築をしていく。 ○後期も公開授業を実施し、授業力の向上に努める。
情報発信の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ホームページやインスタグラム等を活用し、生徒の活動の様子を積極的に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内向けにはClassroomやマチコミメールによる情報提供は充実しており、校内・校外向けにはホームページやインスタグラムによる情報発信を積極的に行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ホームページやインスタグラム、広報紙等それぞれの役割や特徴を活かし、各ステージ、各グループ、各部活動の情報が時機を逃さず積極的に発信されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ホームページやインスタグラム、広報紙等の役割、特徴を整理する。広く多くの職員から情報が更新されるよう呼び掛けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ホームページやインスタグラムに対して保護者からの関心は高まっているが、配信は、十分とは言えない。 ○広報誌の作成に当たっては、保護者と連携し工夫している。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○好成績を上げた部活動や行事だけでなく、日常の学校生活の様子も情報発信していく。 ○各グループ、ステージ、部活動などにおいて、情報更新する担当者を決めて情報発信する。
働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○「前例踏襲」を廃止し、「記録」をもとに業務を行い、「よりよいもの」へと更新していく。 ○時間外業務時間を更に削減していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○諸活動の見直し・変革期にあたり、前年度の活動をそのまま踏襲すること自体が困難な状況にもある。 ○会議の精選及び実施回数の精選により、時間外業務削減につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「記録」をもとに業務内容等の修正が習慣化されており、次年度の改善すべき点が明確になっている。 ○業務の偏りがなく、すべての教職員の時間外業務時間が減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「記録」をもとに業務の改善点を明確にし、業務内容の改善や時間短縮につなげる。 ○ICTを活用して情報共有や意見交換を行うことで会議等の時間削減を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○会議を勤務時間内に終わらせるよう準備し、ほぼ勤務時間内で終了している。 ○記録が十分にとれていない。 ○ステージ会、グループ会、教科会等でICTを活用することで、時間外業務削減につながっている。 ○校内分掌に探究活動グループを新設し、チャレンジグループ活動の見直しに着手した。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○記録をもとに業務内容の改善を行う。 ○業務に偏りがある場合は、今後もグループ内で協力していく。